

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.73
2017.7



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

続々森へ帰る“ヤマアカガエル”

遡ること4月下旬、まだミズバショウが瑞々しく咲いていたキャンプ場入口の湿地から「キャハハハ……」と人が笑っているような声が響いてきました。「ん？誰かいる？」と覗き込んでみると人影はなく、水面だけが揺れている…。それはヤマアカガエルたちの声でした。メスをめぐるオスたちの気迫に満ちた声！とは言いつつも、軽い響く音が心地よくもありました。慌ててカメラを取りに戻るも既に姿は見えませんでした。そこにはたくさんのゼリー状の卵塊が残されていました。その一部を館内展示用に採取し飼育開始すると、1週間から10日後にはオタマジャクシに。そこから1か月以上かけて後足、次に前足が出てきました。尾がなくなったカエルはいよいよ森へ。自然界では多くの卵やオタマジャクシは他の生きもののエサになり、大きな個体になるのはほんの一握り。1cmほどの“森の新人さん”、またどこかで会おうね。

What is “Yamaakagaeru”?

「山にすむあかいカエル」

アカガエル科

全長：40～80mm 前後

分布：本州、四国、九州、
佐渡島

ニホンアカガエルとよく似ているが背側線が鼓膜の後で曲がっている・下顎に斑紋があるのが特徴。メスは一度に1000～1900個程度の卵を産む。匂いを記憶し、産まれた場所へ戻ってくると言われている。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



網張から直線距離で約28km 離れている

網張から見える 山ノート

7ページ目 あすまねさん 東根山

あすまねさん
東根山

標高：928.4m

位置（網張VCから）：南東

登山適期：通年

特色：紫波三山の一つで、紫波町と雫石町にまたがる。元日登山でご来光を拝むなど、地元の方にも広く親しまれている。

あすまねさん
東根山は奥羽山脈から派生した山で、山容は台形をしています。猛暑に見舞われた7月の某日、ラ・フランス温泉館の右手奥にある登山口に車から下り立つと、熱気が身体にまとわりついてきました。登山道の序盤はスギ



の人工林をジグザグに登って行きます。休憩スポットの「一の平」まで登るとスギは途絶えて、ブナやミズナラなどの広葉樹林が主体となって登山道に陰を落としていました。「二の平」、「蛇石展望台」

を經由し、山頂手前にある開放感のある「見晴し展望地」に辿り着くと、空にはたくさんのアキアカネが飛び交い、夏の空気を「待っていました！」とばかりに味わっていました。おかげで大量にかけた汗を忘れて清々しい気持ちになりました。



展望地より、手前の山は左から西東根山、南昌山、箱ヶ森

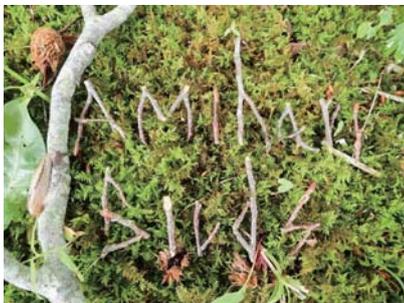
山で買った
7/27なもの



機関鉄岩



山神様



アミハリ・バース Vol. 16

ツツドリは冬にどこか南方で過ごし、網張には5月の初旬頃やってきます。カッコウの初鳴きは5月20日以降なので、姿が似た両者も生態や托卵する鳥など微妙に違いがありそうです。ツツドリが托卵する相手は卵の見分けが上手ではないウグイス科が多く、センダイムシクイが好んで選ばれるようです。托卵される鳥が少し気の毒な気もしますが、あえて自分で子育てしない道を選んで種を永続させてきたツツドリにも、鳴き声とあいまって哀愁を感じます。



ツツドリ

科名：ホトトギス科
全長：約32.5cm
生態：夏鳥
分布：九州以北

鳴き声

ポポポポポ…
ポポ ポポ ポポ…

←ツツドリの足の指は前2本、後ろ2本の対趾足で、枝をつかむのに適している。

十和田八幡平国立公園内の温泉を訪ねて

十和田八幡平国立公園のテーマ～^{せきりょう}みちのくの青梁～^{せいひつ}原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場～
その奥山の湯治場を訪ねます。前回に引き続き「網張温泉」の2回目です。

網張温泉（其二）

明治四十三年九月、盛岡中学生で十四歳の宮澤賢治は寮の仲間たちと岩手山へ登った後、網張温泉へ下って一泊しました。既に湯守も山を下りた後で布団も無く、かろうじて焚火と温泉で寒い一夜を明かしたそうです。それから百と七年が経過し、淋しかった湯治宿は近代的なリゾートに生まれ変わりました。

「休暇村岩手網張温泉」内の五つの湯と雫石町の「ありね山荘」を総称して網張温泉と呼び、年間十万人を越す人が訪れます。その源泉は網張火山列上の犬倉山火口跡の底から噴出しています。周囲一帯は熱による変質で岩石が白化、粘土化し、熱水や水蒸気が噴出し、硫化水素ガスも含まれるため立ち入りが禁止されていますが、明治初期以前の網張温泉は、この元湯に笹掛けの仮小屋をつくり、利用者はムシロやゴザを担いで麓から長い山道を登ってきて入湯したと言われていました。入湯というより、蒸湯や岩盤浴の利用だったかもしれません。（右図は当時の網張元湯 岩手放送出版「岩手山」より）



弱酸性の単純硫黄温泉（硫化水素型）という泉質は典型的な火山性の温泉で硫黄は元々マグマ内に含まれていたものです。

殺菌効果があるので、老化した皮膚を分解して新陳代謝が良くなり、温泉水が肌から吸収され易い低張性という性質です。

利用者から「やや熱めのお湯で疲れがとれる」「湯から上がると汗のキレが良くさっぱり」「適度な硫黄の香り」などが魅力という声が聞かれます。とは言え、元湯から2kmもの距離を引湯する天然温泉ゆえの苦労もあります。元湯付近の雨の降り方や積雪量によって湯温と湯量が微妙に変化するのです。「昨日と湯の色と匂いが違う」と指摘する常連さんもいるとか。周りの山々が雪化粧し始めた頃、引湯管に詰まった湯の花を取り除くために氷点下の山中に入っていく温泉スタッフがいることはあまり知られていませんが、そんな裏方の努力が網張温泉を支えています。



岩手山地区パークボランティアの素顔（その2）

国立公園を支える陰の力

広大な面積を占める十和田八幡平国立公園。北から十和田八甲田地区、八幡平地区、南八幡平地区、岩手山地区の四つに分かれて地元のボランティアによる国立公園の保護と利用のサポートが行われています。中でも一番活動の歴史が新しい岩手山地区のパークボランティアの連絡組織（愛称：モモンガの会、平成29年度で44名が登録）の事務局長を務めているのが、

^{いえこ けんいち}
家子 賢一さん

年齢も住むところも仕事も様々なボランティアさん達をつないでいく大切な役割を担っています。



「ボランティアに参加したきっかけは？」・「岩手県の自然保護課に勤務していた頃、50歳を過ぎてから登山を始めました。その中で岩手山九合目の避難小屋の清掃や不動平の植生保護をボランティアで続けていた阿部さん（現モモンガの会会長）の活動に魅かれて参加するようになりました」。自然保護課時代は登山道刈払いで生じた枝葉をきちんとまとめて避難小屋まで担ぎ降ろすこともされていたそうで、そのきっちりとした仕事ぶりは今でも変わりません。「ボランティアをやっていると良かったと思うことは？」・

「年配の人が元気に登山する場面に会ったりすると自分自身がそこから元気をもらいます。まだまだ頑張れると。そして自分達がやっていることが小さなことでも、みんなの役に立っていると思うだけで十分です」。「ボランティア活動を続けていくのに大切なことは？」・「物事を少人数だけでなく、大勢で意見を出し合いながら決めていくということ。必ずより良い方向が見えてきますよ」。「国立公園を利用する人

に対して感じることは？」・「昔と比べるとマナーは格段に良くなったと思います。知らない人同士でも、お互いに声を掛け合って事故なく登れたらいいですね」。「次世代に向けて何かメッセージを？」・「気になっているのは、公園内でオオハングソウのような外来植物が増えていること。次の世代にいい環境を残すために私たちの時代に駆除しておかなければと思います」。

・「この国立公園でお気に入りの場所は？」・「岩手山馬返しコースの旧道4～6合目。荒々しい地形を歩きながら、可憐な高山植物と毎年再会できるのが楽しみです」（ビジターセンタースタッフが「家子工務店」と呼ぶほど様々な分野での修理を引き受けてくれます。インタビューの日もテラスのイスを直してくれました。感謝。 土木技術振興協会 勤務）

V C 行 事 報 告

「一万年以上も昔にタイムスリップ！」

6/10 「火山噴出物の観察から岩手山の

火山活動の歴史を垣間見る」



事前にボランティアの方々から産を整備し観察用のハシゴをセットしてくれました。

岩手山馬返し駐車場西側の崖は、一万二千年前～現在までの火山の噴出物がきれいな層となって観察できます。17名が参加して土井博士から説明を受けました。一番下にあったのは十和田火山起源の火砕流。この地で人間の活動が始まる遙か以前に飛んできた火山灰や軽石を手にとった参加者たちは感慨深げでした。

6/24 「三ッ石山の花紀行」

解説の齊藤安正さんが参加者の為に準備した三ッ石山の植物リストは241種類。時間をたっぷりかけた観察で参加した31名は多くのことを学びました。紅葉だけでなく花の三ッ石山も魅力に満ちていることを。



「盛岡管理官事務所に着任いたしました」

環境省 国立公園管理官の荒巻 理恵さん

皆様、はじめまして。7月より盛岡管理官事務所に着任しました荒巻理恵と申します。前任地は、釧路自然環境事務所野生生物課でタンチョウやオジロワシ・オオワシなど希少種の保護に取り組んでおりました。

山梨県出身で、自然に囲まれて育っておりますので、とても盛岡は都会に感じております。なにより、今は釧路の涼しさに慣れてしまったせいか、暑さが辛いです（網張の気温がちょうど良いです）。いつも悠然と構えている岩手山に毎日元気をもらっております。修学旅行で初めて奥入瀬渓流を訪れ感動し、学生時代には秋田駒ヶ岳にてサプレンジャーをし、縁あって盛岡管理官事務所に着任できたことをとても嬉しく思っております。多くの人に愛されている岩手山をはじめとした十和田八幡平

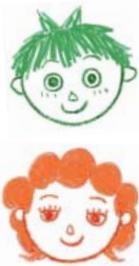


前任地釧路自然環境事務所のキャラクター「シマフクロウの「ぶらっきー」と一緒に

国立公園について、これからも愛され続ける国立公園となるよう努めて参りたいと思います。

どうぞ、よろしく
願います。

これからの
網張ビジター
センター
活動プログラム
(予定)



8月6日(日) 網張ビジターセンター集合 19:00~20:30 参加費 500円(中学生以下300円)

国立公園で楽しむ親子の自然体験「ナイトハイクと星空観察」

定員: 親子10組 20名 協力: 盛岡市子ども科学館

8月18日(金) 雫石町滝/上園地駐車場集合 9:00~12:00 参加費 200円(傷害保険料)

「国立公園の生態系を守る」(オオハンゴンソウ防除作業) ひたでも参加可能

9月9日(土) 滝R市馬返し駐車場集合 6:00~15:00 参加費 800円(小学生400円)

「岩手山山頂で賢治の作品を味わう」

定員: 20名 講師: 関 敬一氏(雫石と宮澤賢治を語る会)

◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆ 7.1 - 8.31 ビジターセンター企画展示コーナー

—工藤 義之 水彩画展—

「風景 里山の四季」

山の上から街の郊外までを里山として広い範囲でとらえて、穏やかで長閑な風景を描くことにしました。岩手県内の自然の豊かさ、美しさを感じていただければ幸いです。・・・(出展者のことばより)

風景画の中からやさしい物語が生まれてくるようなとても素敵な絵だと思いました。・・・(見学者の感想ノートから)

工藤 義之氏 プロフィール

1945年生まれ盛岡市在住 趣味 登山(主に岩手県内・冬山以外)
水彩画・パステル画 大理石彫刻 テニス・バドミントン スキー 合唱



【 紫波町 水分地区 武田家 】

モモンガのつぶやき

昔々、まだ高校生だった頃、夜行列車で全国を旅しました。名所や観光地を訪ねるのでは無く、ただ無名の地方を回ったのです。次の目的地がどんなところかわくわくする気持ちと未知への不安が同居してずっと列車の窓の外を見ていました。今でも、その時の情景がくっきりと思い起こせるのは「旅」の本質的な楽しさがそこにあったからだと思います。秒刻みで変わるネット情報と詳細な旅行ガイドで事前に知りえた場所を確認するだけの行為が「旅」といえるかどうか? 夏休みをむかえ、網張を訪れるビジターさんが増えてきます。どんな情報の提供の仕方がいいのか自問自答しながら対応する毎日です。(たくちゃん)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆5月 2, 122人 ◆6月 2, 100人

ビジターセンター朝9時平均気温 ◆ 5月 9.3℃ ◆ 6月 10.7℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月まで) 休館日なし 9時~17時